

献呈の辞

駒澤大学法学部教授北野かほる先生は、本年三月末日をもって本学をご定年によりめでたくご退職になりました。先生は、平成六（一九九四）年四月に本学にご就職なさってから、二十八年間、本学及び法学部の発展に多大なご貢献をなさいました。法学部教員一同、感謝の気持ちから、本誌『駒澤法学』第二十二巻第一号を先生の退職記念のために編み、謹んで献呈する所存でございます。

先生は東北大学法学部をご卒業後、同大学院法学研究科基礎法学専攻にご進学なさり、昭和五十六（一九八一）年に博士後期課程を修了なさいました。そして翌年四月に岩手県立盛岡短期大学助教授にご就任になり、先に述べた平成六（一九九四）年に本学法学部助教授に、平成十二（二〇〇〇）年に本学法学部となり、長年にわたって教育と研究に邁進なさいました。先生の薫陶を学生のみならず、学部を超えて多くの教員が受けることができました。

先生は専門教育科目以外にも、長年初年次教育をご担当になりました。他大学でも学部教育はもちろん、大学院教育にもご活躍なさいました。その結果本学のみならず、他大学で先生の指導を受けた学生はとも多くおります。また先生は、ご専門の中世イングランド法を中心に、ヨーロッパ中世法制史をご研究になり、多くのご業績を残されていらつしやいます。先生はクラシック音楽等だけでなく広くヨーロッパ文化へのご造詣が深いことに、いつ

も感嘆させられました。教員の懇親会で日本ではあまり知られていない秘蔵のスコッチ・ウイスキーを毎年振舞われたことも、懐かしい思い出でございます。

大学行政にあつては、法律学科主任をはじめ、各種の委員を幅広く歴任なさいました。法学部教授会をはじめ各種委員会では、堂々と正論を述べられ、安易な妥協を戒められました。そして大所高所からのご識見により、法学部のみならず、大学全体の適切な道筋をつけられた先達として、とても大きな寄与をなさいました。残された後輩といたしましては、先生が退職なさって、先生の役割の重要さを思うと、抜けられた穴の大きさを痛感しておりますが、これを法学部全体で乗り越えてまいりたいと思っております。

先生は、定年でご退職後、名誉教授に就任されました。名誉教授には任期がございません。これからも、研究の面を通してのご活躍を期待すると同時に、我々へのご指導、ご鞭撻をお願いする次第でございます。学務を離れた先生が、末永く健やかに過ごされることを心から祈念いたします。

法学部長 熊谷芝青